

第8回 原子燃料分科会 議事録

1. 日 時 平成19年11月8日(木) 10:00~11:50

2. 場 所 日本電気協会4階 D会議室

3. 出席者(敬称略, 順不同)

出席委員: 寺井分科会長(東京大学), 上村副分科会長(原子力安全基盤機構), 小平(北海道電力), 千代(北陸電力), 田口(東京電力), 篠崎(四国電力), 原田(中部電力), 窪田(ジルコプロダクツ), 松本(グローバル・ニュークリア・フュエル ジャパン), 村田(原子燃料工業), 中島(日本原子力研究開発機構), 佐々木(原子力安全・保安院), 山中(大阪大学), 笠井(日本原子力技術協会)

(14名)

代理委員: 横谷(電源開発 猪原委員), 西山(九州電力 本田委員), 中島(日本原子力発電 松浦委員), 佐藤(東北電力 横式委員), 池田(中国電力 吉谷委員), 野田(日本原燃 大江委員), 池田(三菱原子燃料 加藤委員), 斉藤(三菱マテリアル 須田委員), 鈴木(日本原子力研究開発機構 更田委員)

(9名)

常時参加: 武田(原子燃料工業)

(1名)

欠席委員: 安部田(三菱重工), 堀内(関西電力)

(2名)

事務局: 浅井, 高須, 石井(日本電気協会)

(3名)

4. 配付資料

資料 8-1 原子燃料分科会及び原子燃料検討会 委員名簿

資料 8-2 第7回 原子燃料分科会 議事録(案)

資料 8-3-1 JEAG4204 改訂スケジュール(案)

資料 8-4-1 原子燃料分野の規格, 基準類と学協会規格

資料 8-4-2 原子燃料分野における規格, 基準類リスト

資料 8-5-1 「原子力規格委員会 活動の基本方針」における原子燃料分野の文章(案)

資料 8-5-2 「原子力規格委員会 各分野の規格策定活動」における原子燃料分野の文章(案)

参考資料 1 第4回原子燃料検討会議事録(案)

参考資料 2 第21回基本方針策定タスク議事録(案)

5. 議事

(1) 会議定足数の確認, 委員変更等

事務局より, 委員総数25名に対し本日の委員出席者数(代理委員含む)は23名であり, 会議開催条件の「委員総数の2/3(17名)以上の出席」を満たしていることの報告があった。

また, 事務局より, 資料8-1に基づき当分科会への常時参加希望者及び原子燃料検討会委員の交代について報告があり, 次のように承認された。

原子燃料分科会への常時参加: 武田 様(原子燃料工業)

原子燃料検討会 委員の交代

退任: 大久保委員(原子燃料工業)

新任: 武田 様 (原子燃料工業)

(2) 前回(第7回 原子燃料分科会)議事録案の紹介等

事務局より、資料 8-2 に基づき、前回議事録(案)の紹介があり、特にコメントなく承認された。続いて参考資料 1 により、第 4 回原子燃料検討会の状況が紹介された。

(3) JEAG4204-2003「発電用原子燃料品質管理指針」改定について

事務局より資料 8-3-1 に基づき、平成 20 年度末に成案策定を目途に JEAG4204-2003 の改定作業に着手したことの報告があった。また、分科会幹事から、当初、成案策定を平成 20 年末を目途に計画したが、原子力規格委員会への改定案の中間報告が必要との当分科会コメントを受け、スケジュールを見直した旨の補足説明があった。

(4) 新規格、基準類の必要性について

分科会幹事より、資料 8-4-2 に基づき、原子燃料の成型加工及び発電所運営上のニーズから新規に整備が必要と考えられる規格の抽出状況について報告があった。

続いて村田委員より、資料 8-4-1 に基づき、原子燃料分野における現状の規格、基準類体系の整理状況及びこの体系における既存の規格と上記新規規格の関連付けについての検討状況について説明があった。

結論として、以下の質疑・コメントを踏まえて引き続き検討を進めること、また、本日の資料についてコメント等があれば分科会幹事へ連絡することとなった。

主な質疑・コメントは以下のとおり。

- 1) 日本電気協会と日本原子力学会の規格策定分担の考え方として、研究的要素のあるもの及び原子炉安全に係るものは原子力学会、それ以外は電気協会として仕分けしたが、このような考え方でよいか。

仕分けする時の最初のキーワードとしては、安全に関するものが原子力学会、運用的なものが電気協会であり、研究的要素のあるものが原子力学会ではなかったのではないかとの印象を持っている。

これを突き詰めて考えると、運用的なものであっても技術開発が必要なものが出て来たときは、電気協会を介して事業者に何らかの研究なり試験を実施してもらってデータや成果を提供してもらおうという考え方になる。

3 学協会の役割がすっきり分かれていないところもある。技術開発の伴うものは電気協会はやらないと決まっている訳でもないようなので、こちらで余り決めずに 3 学協会の協議会(原子力関連学協会規格類協議会)等で議論して整理してもらった方がよいと思う。

原子力学会は研究者の集まりであり、大学なり研究機関なりで研究開発を分担して計画をしっかりと立てて進め易いと思うが、電気協会は事業者の集まりであり、直接自分のところでどこまでやるかを決めにくい。そのようなものの分類をどうするかは悩むところ。

最終的には原子力関連学協会規格類協議会での調整になるのでは。

先日の原子力関連学協会規格類協議会資料を見ると、これまで原子力学会は原子炉安全を中心に、電気協会は基本設計から運用まで幅広く、各々やっていますと書かれていたが、分担についてははっきりしていないようだ。

規格化ニーズを漏らさずカバーしようとするれば学協会間の調整は必然と思うが、腹案がないと話が進まない。検討会、作業会ではスケジュール的なことは考慮しているか。

まだスケジュールの段階まで来ていない。規格化のニーズを出し、何を採り上げるべきかの整理、それをどう実現させるかというように段階的に進める中で、学協会間の調整も出てくる。次回か次々回くらいには議論ができると思う。

学協会間の調整が必要なことは認識されたので、具体的なアクションプランを作成する時に、これらも実施項目としてスケジュールの中に入れてもらいたい。

取替炉心に関する記述のなかで火原協（火力原子力発電技術協会）答申「取替炉心毎の安全性確認について」の記述があるが、火原協は改組して規格のメンテナンスは行なわない。このため、電気協会が取替炉心の安全性確認に関する規格策定に取り組むことは、現在の業務の抛り所となる規格をしっかりとメンテナンスして行くという意味で有力ではないか。

取替炉心の安全性確認については、現在は古い規格に基づいているので、現状を反映したものとすべき。また、BWRの炉心安定性に関する規格の必要性についても言及されたが、検査期間の延長を考えるとPWRでも同様のものがあつた方が良いのではないか。

（５）基本方針タスクの活動方針について

事務局より、参考資料２に基づき、基本方針タスクにおける規格策定基本方針の見直しの状況及びこの見直しの中で各分科会の活動方針を本文及び別冊に分けてそれぞれ記載する方向で調整されていることが報告され、続いて分科会幹事から、資料 8-5-1 及び資料 8-5-2 により当分科会の記載文章案について説明があり審議を行った。

この結果、以下のコメントを踏まえて資料を修正し、次回の原子力規格委員会までに調整することとなった。

主なコメントは以下のとおり。

- 1) 「規格，指針」との記述は、「規程，指針」に統一した方がよい。

資料 8-5-1 の「規格，指針」は、「規程，指針」に統一する。資料 8-5-2 の「規格，基準類」及び「規格・基準類」については、事務局で使い方を調べた上で用語を統一する。

- 2) 「活動の基本方針」の文章は原子力学会との関係の記述は削除して、もっと簡潔にしてはどうか。

原子力学会との分担を明らかにすることは、基本方針タスクからの要請で記載しているものなので、どこかに記載は必要。複数案を作って調整する。

（６）その他

今回は 12 月 21 日（金）午前 10 時からとなった。

以 上